



帯広畜産大から感謝状受ける
宮坂建設工業

【帯広】宮坂建設工業（本社・帯広）は24日、北海道胆振東部地震での停電対応について帯広畜産大から感謝状を贈られた。奥田潔学長が宮坂寿文社長に賞状を手渡した。写真。宮坂社長は帯広畜産大

運営委員会委員を務める。先代の宮坂文一社長は長年にわたって馬術部を支援するなど同大とは交流が深い。現在も図書館北棟改修を施工中で、発電機の貸し出し支援を求められた。このため同社では、20キロワットと10キロワットの発電機を1台ずつ、12日間にわたって軽油とともに提供した。

地震の停電では、冷凍冷蔵保管していた研究材料が破損するといった事態に見舞われたが、奥田学長は「最小限の被害で済み、本当に感謝している」と喜んでた。宮坂社長は「これまでいろいろとお世話になってい

る。役立ててもらえてうれしい」と言って感謝状を受け取った。

各企業等の社会貢献

宮坂建設工業に感謝状
地震停電時の電力復旧支援で

【帯広発】宮坂建設工業（帯広、宮坂寿文社長）は24日、帯広畜産大から感謝状を贈られた。北海道胆振東部地震による停電の際、同大学の電力復旧を支援したことに對するも

の。宮坂社長が奥田潔学長から感謝状を受け取った。同社では災害発生時に備え、創始者の遺訓「世の為か、厚真町で吹き出し支援活動も行った。長年にわたって交流の深い同大に対しては、地震発生翌日の9月7・18日の12日間、停電および計画停電に備え、実験機本や実験キットの劣化を防ぐため、発電機20kVAと10kVAを1台ずつ貸し出した。今回の感謝状贈呈は、この支援活動に対するもの。奥田学長が「本学の電力復旧に對し多大の貢献をされた」として、宮坂社長に感謝状を手渡した。

同社では「今後も地域に貢献できる企業を目指し、引き続き防災活動に取り組みたい」としている。

宮坂社長（右）が奥田学長から感謝状を受け取った。

宮坂建設工業に
帯畜大が感謝状
大規模停電時に
発電機貸し出し

宮坂建設工業（帯広、宮坂寿文社長）は胆振東部地震の際に帯広畜産大、奥田潔学長の電力復旧を支援したとして、同大から感謝状を受け取った。

同社は地震発生翌日の9月7日から、同大の冷凍庫内にある実験機本や実験キットの劣化を防ぐため、要請を受けて20キロワット（kVA）と10キロワットの発電機を1台ずつ貸し出した。実際には同大の電力が完全復旧した9日前まで発電機が使用され、計画停電の可能性があったことから18日まで貸し出しを継続した。

市内の同社本社で24日に贈呈式が行われ、奥田学長から宮坂社長に感謝状が渡された。同社は地域から必要とされる企業を目指し、今後もできる限り構いっ

た。同社は「今後もできる限り構いっ」としている。（中島佑斗）